

## 桓武天皇の遷都と怨霊（前編）

歴代天皇は数えかたによって変わりますが、平成天皇で125代としておきましょう。さて皆さんどれぐらいの御名を思い起こせますでしょうか。

今回ご登場いただきます50代桓武天皇についてはほとんどの方がご存知でしょう。

そうです。あの平安京をお造りになり都とされました。その後京とも京都とも言います。794年（延暦13）のことです。ここ試験に出ますよと言われ。“鳴くよ（794） うぐいす ほーほけきよ”と覚えた方も多いでしょう。

この桓武天皇について、天皇に即位されるに至った謎めいた経緯、平安京に遷都せんとされるまでのいきさつ、果敢なる蝦夷征伐、悩まされる怨霊について教科書では載らないお話をいたしましょう。

先ずお名前です。桓武天皇は諱いみな（実名）は山部やまのべと言います。桓武の名は亡くなってから贈られた（漢風）諡号しごうです。（和風）諡号は、日本根子皇やまとね こあまつひつぎやてらすみこと統弥照尊です。

和風諡号は亡くなって直ぐに贈られましたが漢風の桓武はいつ贈られたかはつきりしません。意味は中国の詩経しきょう（孔子の編）から取ったと言われています。桓々かんかん

（威武）たる武王と言う意味と言われています。又桓武天皇は別に柏原天皇かしわばらともいわれますが、これは埋葬した山稜の土地の名から取っています。

本稿では桓武天皇（又は桓武）で通します。

737年（天平9）の誕生で、父親は後の光仁天皇こうにんで母親は高野新笠たかのにいがさです。

父の光仁天皇は、女帝称徳天皇が亡くなり急遽天皇に起用されました（770年）。天武天皇系の天皇が続き、女帝の称徳天皇が後継天皇に皇統と関係のない道鏡どうきょうを推したことから朝廷内で反論がくすぶっていた中での崩御です。

藤原鎌足系の藤原<sup>ももかわ</sup>百川<sup>くぎょう</sup>等の公卿たちは天武系はもうコリゴリとして、天智天皇系の光仁天皇をかつぎだしたのです。

光仁は思いもよらぬ推戴を受け、62歳の高齢にもかかわらず天皇に即位しました。

光仁天皇の皇太子も決まりました。他部<sup>おさべ</sup>親王<sup>いがみないしんのう</sup>です。光仁と井上内親王と間の子です。母親の井上内親王は聖武天皇（天武天皇系）の皇女ですので、天武系にも配慮した穏当、順当な皇太子の選定です。

ところがその後井上皇后が光仁天皇を呪詛<sup>じゅそ</sup>したかどで他部皇太子と共に逮捕されます。そして二人は服毒自殺します。

何故次期天皇を約束されている皇太子とその母親が天皇を呪詛しなければならないのでしょうか。皇太子を下ろされると思ったからでしょうか。真相は分かりません。冤罪説があります。

直ぐに有力公卿の藤原<sup>ももかわ</sup>百川<sup>やまべ</sup>が山部親王（後の桓武天皇）を皇太子に推戴して決定しました。百川は光仁を擁立した主要な公卿の一人で天武系（井上皇后）が嫌いです。

桓武天皇は百川によって皇太子にしてもらったのです。これは桓武が天皇に即位後、百川の息子の緒継に「今天皇の位にあるのはお前の父親の尽力によるものである」と話していますので事実でしょう。井上皇后の呪詛事件をねつ造したのは百川ではないかとのうわさもあつたようです。真相は分かりません。

山部親王（桓武）は37歳で皇太子になりました。だれも予測していませんでした。

母親は高野<sup>たかのにいがさ</sup>新笠と言いますが、父親は朝鮮の百濟<sup>くだら</sup>からの渡来系の人で、身分も低い人でした。光仁が天皇候補でなく気楽な身分の時に新笠を見出したのでしょう。

当時、天皇の候補は母親の出身が皇族又はそれに準ずる身分の高い貴族が原則ですので、本来は山部（桓武）は皇太子（天皇）になれません。

異例の人事でした。

光仁は体調がおもわしくなく、781年に天皇位を譲位します。新天皇は桓武天皇（山部）で新皇太子は早良<sup>さわら</sup>親王（桓武の弟）です。

光仁はまもなく亡くなりました。

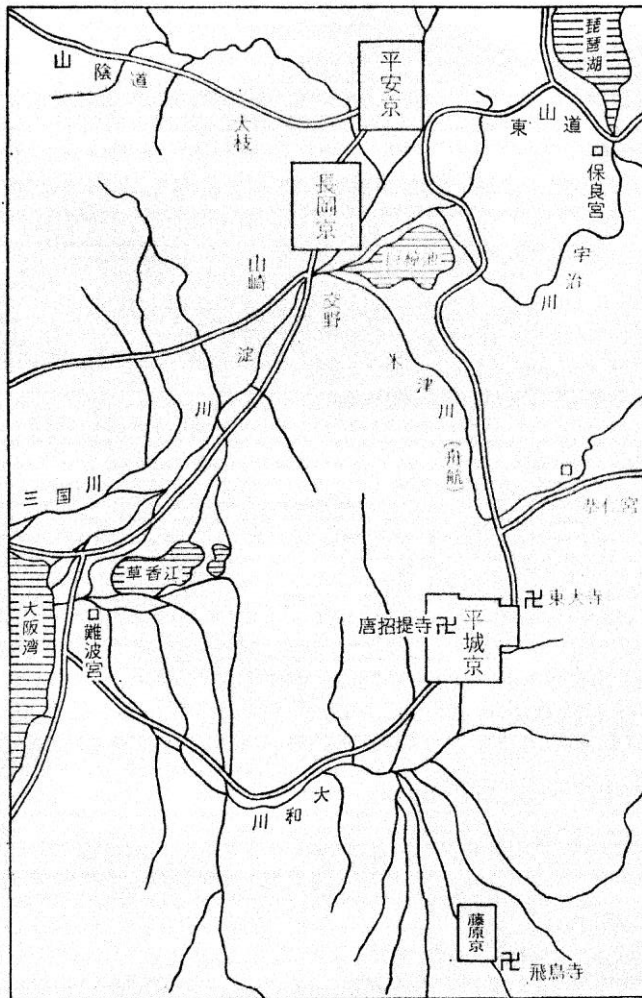
ここで天武系の皇子の氷上川継ひがみのかわつぐの謀反事件がおこります。

川継宮中に乱入し、そして郊外に逃げますが直ぐに捕まります。謀反として伊豆に遠流になります。(782年)

親も自分も本筋でないにも関わらず天皇位に就き、上記事件が起こった後、桓武は長岡京を造営して平城京より遷都します。(延暦3年 784年)

ながおか長岡京は平城京(奈良)の北方直線で30キロメートル、後に出来る平安京の西南の方向にあります。

やましろのこく山背国(遷都後に山城国)やましろのくに乙訓郡長岡村おとぐにに造営されました。



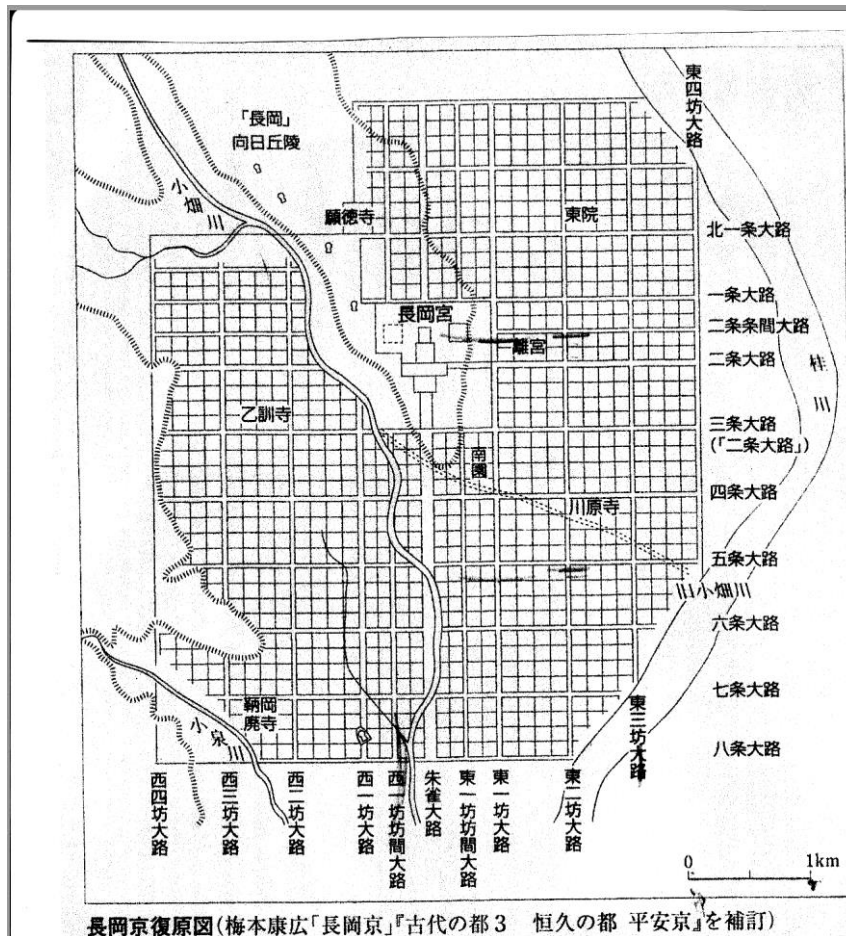
八世紀前後の畿内中心部の推定図

(「長岡京の謎」より転載)

規模はそれまでの平城京とあまり変わりません。東西4キロ余り、南北5キロあまりです。(平城京は東の興福寺方向へ一部張り出している分広い)

北から南へゆるやかに傾斜します。北に大内裏(皇宮)があり、南に家臣の住宅や町が開けています。

都の造り方は平城京と変わりません。南より北が高い位置で、天皇は御殿だいごくでん(大極殿)で南面して座して臣下と向き合います。



(日本史リーフレット人「桓武天皇」より転載)

桓武は長岡京遷都を延暦3年5月に決定し造宮開始、11月にもう本人は移りました。工事はその後も続行されます。

64年続いた平城京を廃都にして長岡京遷都の理由は何であったのでしょうか。

桓武自身は、水陸交通の便の良さをあげています。

長岡京の南郊の大山崎の地は葛野川かどのがわ（桂川）、宇治川、木津川の合流点で淀川となって大阪湾に注ぎます。大山崎の地は長岡京の外港として使えます。陸路は琵琶湖方面から伏見を經由して山陰道が走っています。

しかし平城京も水運は南には飛鳥（大和川で大阪湾へ）、北は木津（木津川）の外港があり、陸路は東西南北に通じています。

遷都が交通の便が一番との理由とは考えられません。

本当の遷都の理由は当時明かされませんでした。その後今日まで多くの識者が推測してきました。

主要なものを二つ上げます。

一つは仏教勢力の増大を抑え、政権関与への拒否を貫くことです。

天武天皇系後胤の政権時代では僧侶の道鏡、玄昉等が朝廷で力を持ち政治に関与してきました。この弊害の打破するためです。これは新京長岡京へは奈良の既存の寺の移設は認めず、長岡京の寺は地元の小さい七寺だけにしたことと分かります。

もう一つは天武系政権の否定で、父親の天智系政権が新たな天皇政治の始まりを暗に宣言。これが平城京の否定、新京の創設となった理由です

ご説明が後先になるようですが、これまで天智天皇系、天武天皇系と言ってきました。

このお二方の関係です、

天智の弟が天武です。天智は未だ天皇になる以前の中なか大兄皇子おおえのおうじ時代に蘇我入鹿を忠罰した人、朝鮮の内乱で百済に味方して負けた（白村江の戦い）天皇です。自分の後継は弟の大海人皇子（後の天武天皇）にするつもりでしたが、晩年に息子の大友皇子に後を譲ることに変更します。

いよいよ天智が亡くなった後、大海皇子（天武）と大友皇子は跡目をめぐって大戦争になりました（壬申の乱）。大海が勝利し、天武天皇となりました。

そして天武が亡くなった後、天武の子が幼いので、女帝持統天皇が臨時で天皇に即位しました。

持統天皇は天智の娘で、叔父の天武の皇后です。

持統は亡き夫の天武と自分との間の子を天皇の筋にすべく画策し、これが成功して、天智系ははずされ、天武系の天皇で女帝称徳天皇まで続きました。

しかし女帝称徳が道鏡事件を起こした後に亡くなります。そして藤原氏等の公卿が天武系を外し今まで蚊帳の外だった高齢の光仁天皇（天智の孫）を推戴したのです。

しかし天武系の皇子たち一派の返り咲きの動きはあったのです。これが上記氷上川継事件です。

桓武は天武系一派を否定して天武系の平城京を捨て、天智系での新たな出発のために遷都を目論んだと言われています。

場所は何故長岡の地になったかですが、母親の高野新笠の父親がこの地の住人で、桓武はこの地で生誕しました。桓武は狩りが好きであちこち出かけることが多く自分でこの地を適地と決めたとの説があります。

さて、桓武は自分の立太子を凶ってくれた藤原氏の長老（百川、永手、良継、縄麻呂等）に恩義がありますが、いずれも高齢で桓武が天皇に即位する時には亡くなっていましたので政治的に自由にふるまえたのです。その長老たちの息子たちを優遇して起用し側近、官僚とし、専制政治をしいたのです。

ところが長岡京に移って翌年9月に桓武が京を留守の間に殺人事件が起こります。

新京の造営責任者の藤原種継<sup>たねつぐ</sup>が工事現場で指揮中に兵士二人に弓で射殺されました。

種継は恩人の一人藤原清成の息子で、最も信頼していた家臣の一人で、新京造営の担当責任者です。桓武は直ぐに犯人を捕らえ、背後関係を調べ大伴氏一族が関わっていることが分かりました。関係者は斬首又は流刑です。

歌人で有名な大友家持<sup>おおともやかもち</sup>は事件の少し前に病没していたのですが、事件関係者として官位除名処分となります。

さてここでこの事件の背後は早良皇太子ということになり、忽ち謀反とされ、早良は廢太子となり長岡京の乙訓寺<sup>おとくに</sup>に幽閉され淡路島に配流が決定しました。

早良は飲食を断って淡路島への途中で絶命しました。無実への抗議でしょう。何故皇太子に嫌疑がかかったのでしょうか。それは殺された種継と皇太子の部下の大伴氏グループとが平素仲が悪く、この事件が起こったようです。

種継を殺した後、大伴氏グループは何の行動も起こしていないのですから、桓武天皇への謀反ではないでしょう。

早良皇太子は桓武とは同腹（高野新笠）の弟です。

とにもかくにも早良皇太子は無実への抗議で亡くなりました。

新皇太子は桓武の子の安殿親王<sup>あて</sup>（後の平城天皇<sup>へいぜい</sup>）に決まりました。桓武がこの機に早良を廢太子にして我が子を皇太子にしたとの憶測する人もいます。

さてこの早良自殺の問題は後年怨霊問題となって桓武を悩ませます。このことは後述します。

ところが長岡京はたった10年で廢都とし、平安京に遷都します。

このいきさつについては後編と言うことにさせていただきます。

以上

2018年4月27日

梅 一声